



大庭公民館まゆ玉づくり

1月7日大庭公民館では、地区内の親子を対象としたまゆ玉づくりが、公民館、育成会、大庭地区有志主催により開催されました。

今の子どもは、下校後ゲームや塾など室内で過ごす事が多くなり、昔のように放課後に友達を誘って外で遊ぶ事が少なくなってきた、人とのコミュニケーションを取り取る事が苦手になりつつあります。

そんな子ども達にみんなで作る魅力や他人とのコミュニケーションを取り取る場となつて欲しいという願いから「親子まゆ玉づくり」が開かれました。

子どもも親もまゆ玉を作った経験は少なく、水の量を間違えて柔らかくなったり、手順が分からず戸惑う事



平成 30 年 3 月 1 日現在	
世帯数	2,824 世帯
男	3,366 人
女	3,508 人
総人口	6,874 人

もありましたが、講師のアドバイスを受けながら個性的なまゆ玉が多く出来ました。まゆ玉完成後、外に用意された柳の枝を使い、慣れないノコギリで適当な長さに切り、出来上つたまゆ玉を枝に刺して完成しました。

安心して生き生きと暮らせるまちづくり講座

2月23日、今年度3回目の講座を行いました。「私から私たちへ広がる気づきと学び」南信濃の事例から考える公民館の役割」と題して、長野県教育委員会文化財生涯学習課企画幹の木下巨一さんと飯田市南信濃公民館主事の林優一郎さんを講師に招き、お話を伺いました。家族が認知症になり、どこに相談したら良いのか全く分からなかった体験談や、地域で「遠山家族」という



日頃から困りごとや地域のことを語り合える場づくりから進め、よりよい島立になるよう皆で取り組んでいくことが大切です。

テーマを掲げ、介護に関する学習会を地域全体へ広めていった経験などを通して、地域ですと生活していくには国や市の制度だけでは不十分ではなく、普段からのお付き合いやつながりが大切で、困りごとを自分のこととして捉え、住民が主体的に取り組むことが必要と話されました。

島立地区市政懇談会



2月9日、島立公民館にて市政懇談会が開催されました。最初に市政

- ①豊かな自然環境や、松本市の西の玄関口を最大限活かした歴史の里の周辺整備
- ②交通渋滞の解消と地域づくりセンター周辺の公共施設の機能を活かすための合庁南線先線の早期開通と周辺道路の整備
- ③将来、福祉ひろげを地域づくりセンター敷地内に再配置し、子どもからお年寄りまで交流できる場所としての整備

堀米公民館 ピンポン大会



2月4日、堀米公民館で毎年恒例のピンポン大会が行われました。幅広い年齢の参加者たちが、世代を超えて楽しい時間を過ごしました。

永田公民館 冬期講座

1月27日「ウォーキング・ストレッチの基本を知ろう」という冬期講座が永田公民館で行われました。スマイルボーリングや、恒例のそば会もあり、親睦が深まりました。



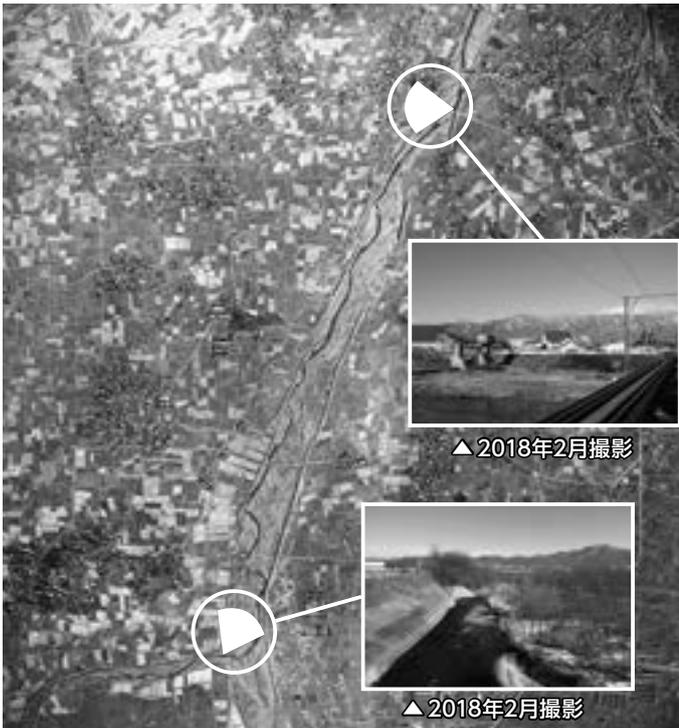
島立探訪 島立の道と水

「治水からみた 奈良井川と鎖川」

その一 〈概況と被害歴〉

今回は、島立の地区境を流れる奈良井川と鎖川について、平成七年に長野県松本建設事務所奈良井川改良事務所が発行した『奈良井川』を引用し、書き記してみます。

奈良井川は、中央アルプス茶臼岳(二、六五三m)を源流とし、梓川と合流する流路延長五六・三kmの河川で流域面積は



▲2018年2月撮影

▲2018年2月撮影

▲出典：国土地理院ウェブサイト(1948年米軍撮影)(加工して使用)

六三・五kmと大きく、比較的水量が多いので灌漑用水として塩尻地区で郷原堰・小俣堰など十数ヶ所の他、島立の荒井で勘左衛門堰、島内の新橋で拾ヶ堰の取水が行われています。この川は明治初年まで木曾方面から流れてくる川という意味で「木曾川」と呼称されていましたが、伊勢湾に注ぐ現在の木曾川と区別する必要からか、明治十年頃から「奈良井川」と呼ばれるようになりまし

た。鎖川は鉢盛山(二、四四六m)と烏帽子岳(一、九五三m)の北斜面から流出する三つの沢が集まり流れ、奈良井川と合流す

る流路延長二二・六km、流域面積一三・三kmの河川です。月見橋から下流の奈良井川では伏流水の湧水が見られます。この湧水は奈良井川・鎖川・田川など松本盆地南部の河川の伏流水が集合し、複合扇状地の扇端に湧出しているもので、島立の花見・征矢野・鎌田・井川城などに湧水帯を形成しています。湧水利用のワサビ田が堀米蛇原地区にあり、荒井地区にもかつて存在しました。

河川は度々氾濫し流域に多大な被害を及ぼしました。安全な河川にするため昔から今に至るまで河川改修を行ってきました。洪水がひとたび発生すると田畑・家屋の浸水や流失、人命喪失といった大被害に見舞われるのですが、復旧には莫大な労力と費用がかかりました。鎖川と奈良井川の合流部に位置する南栗・北栗地区は昔から度々被害に見舞われました。

近世、近代における水害の発生は書き切れないほどあります。鎖川に関して主な水害をあげてみます。近世では、享保元年(一七二六年)七月、北栗林村に対し川除(河川の浚渫や堤防の工事)出入裁許。安永九年(一七八〇年)六月及び天明元・二・三年(一七八一・八二・八三年)鎖川川除普請。寛政十一年

(一七九九年)鎖川洪水、川欠け、民家へ水押し入る。慶応元年(一八六五年)五月、氷雨のため鎖川堤防切れ各地大被害。近代では明治二十五年、西耕地。二十九年今井。三十一年朝日村。三十八年小野沢新田。四十二年朝日村・今井村で堤防破損。大正十二年、鎖川の堤防・橋・道路決壊。昭和三年、鎖川の堤防・橋・道路決壊。

奈良井川では近世、近代ともに鎖川合流部より上流部で度々水害が発生しました。現代では、昭和二十八年七月二十一日に月見橋下流で約三〇mにわたり堤防決壊。昭和五十七・五十八年の台風による集中豪雨禍は島内の新橋の狭窄部を襲い一〇〇戸の浸水被害が発生、これを機に島内工区の改修が加速しました。

河川の氾濫は境界問題も度々発生させました。奈良井川の洪水は川を境界としていた村と村の境界杭を流失させました。一例をあげますと、嘉永五年(一八五二年)四月に島立村北栗林耕地と信楽村笹部耕地及び笹部村二子耕地の三者は立会の上で境界杭を打ちましたが、明治十二年の洪水で杭が流失してしまいました。境界杭は、流失や破損したら早急に修繕する旨を五月に島立村北栗耕地と南栗耕地総代の間で、十月には北栗

耕地と笹部耕地総代の間で確認した記録が残っています。北栗の小岩井永吾さんの寄稿文には、祖父が残した村政記録を基に洪水で流路を変えた奈良井川について書かれています。江戸時代の遠い昔には、堀川と奈良井川の合流地点は現在の堀川尻(島立橋西詰南側)より四、五〇〇m東方ではなかったかと考えられる。祖父の残した文書を頭に入れて二子橋の上立つてみると、橋の上流一〇〇mほどのところから奈良井川は大きく西に曲がって流れているのがわかる。大洪水以前はそのあたりで西に曲がらず、上流からの流れはそのまま北流していたと考えられる。奈良井川本流は石芝町西区から陸上自衛隊松本駐屯地を経て南原町、月見町団地、五月町団地、笹部団地、両島地区の西端あたりを流れ、南部汚水終末処理場の東方から渚町へ流れていたのだろう。(祖父永次郎さんは嘉永二年に生まれ、明治初期には当時島立村の村会議員をつとめた土木委員でした。【一部を抜粋し記載】)

現在の島立と笹部の境界線は右岸堤防付近となっており、川の中央付近ではなく不自然な線引きとなっています。洪水による流路変移が関係しているのかもしれない。

現在、島立と笹部の境界線は右岸堤防付近となっており、川の中央付近ではなく不自然な線引きとなっています。洪水による流路変移が関係しているのかもしれない。

現在、島立と笹部の境界線は右岸堤防付近となっており、川の中央付近ではなく不自然な線引きとなっています。洪水による流路変移が関係しているのかもしれない。

現在、島立と笹部の境界線は右岸堤防付近となっており、川の中央付近ではなく不自然な線引きとなっています。洪水による流路変移が関係しているのかもしれない。